学　校　だ　よ　り

2月号（第05－11号）

令和 6年2月22日

横浜市立高田中学校
校長　横田　由美子
TEL：５９１－４１８３

「ニュー試」！という入試エンターテインメント番組の存在を知りました。日本の入試とはひと味もふた味も違う世界の“入試”にゲストたちが挑戦したり、現地のキャンパスライフに密着したりする番組です。こんな問題が実際に出たそうです。

◇アメリカ・イエール大学◇

「歴史上の瞬間に立ち会うなら？」「明日の午後暇だったら何をする？」

５０文字で答えよ、とのことです。

◇イギリス・ケンブリッジ大学◇

筆記試験「容疑者の発言から嘘つきを見抜け」「従業員全員が希望通りに休むには？」。瞬時に問題の意図を読み解く「論理的思考能力」が求められるとのことです。

面接試験「あなたは、頭が良いと思いますか？」問われるのは「ゼロから考える力」。

◇シンガポール・シンガポール国立大学◇

「有名人は若者のロールモデル？悪影響？論じなさい」。求めるのは「批判的な思考力」。

◇オーストラリア・メルボルン大学◇

「日本の昔話の登場人物に仕事を頼まれた」設定で物語を書きなさい。キーワードは「多様性」。

一度は名前を聞いたことがあるような大学ばかりですが、いずれにしても、その国が大切にする教育の姿や、その国がどんな人材を求めているのか、どんな未来を描こうとしているのかが見えてきます。日本の大学入試もペーパーテストよりも学校推薦・ＡＯの割合が多くなってきています。一方、「まだダイナミックに変われていない高校入試」も日本の実態です。悩ましい現実ですが、グローバル化、多様化、技術の台頭、少子化、高齢化がいやがおうにも進む日本で、子どもたちが幸せに暮らしていくためには、「知識は他国に比べ格段に高い一方、“自律的に計画し学ぶ”、“社会を変えていく・いける”では消極的な日本の生徒」と評価される現状を一歩進め、基本の知識をきちんとおさえながら、一人ひとりが自分事として考え判断し対応できる、“これからの未来に向けて必要となる力”を主体的に身につけていくことが必要と改めて思います。解のひとつが「主体的・対話的・深い学び」であり、「個別最適な学び」「協働的な学び」「教育 DX」「たかた科＊」「学びの多様化」はそのための大切な役割を担っていくのかと思います。

＊未来社会に生きる子どもたちに必要な資質・能力を育むことを目指して来年度高田中学校ブロックで試行を開始する独自教科です。詳細は後日お伝えいたします。

高田中の風景

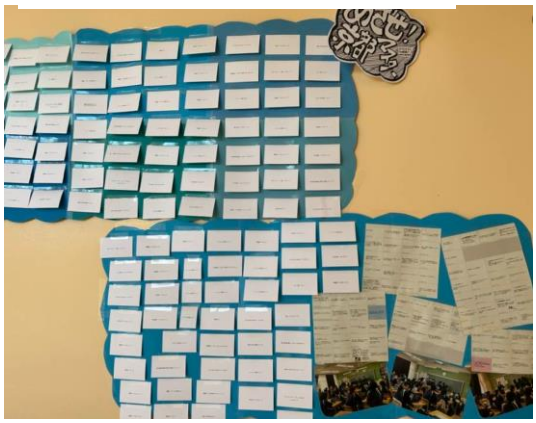
４月に新たな仲間を迎えた入学式からあっという間に過ぎ去っていった１年でした。この１年間最高学年として体育祭・合唱コンクール・高田祭を始めとするすべての行事を引導してくれた３年生は、それぞれの進路決定に向けてできることをやり遂げ、２６日からは高中の仲間と過ごせる時間をよりよく大切なものとすべく特別な時間割を過ごします。１・２年生は「ありがとう」の感謝の気持ちを大切に３年生を送る会の準備に取り組むと共に、いよいよ高中の未来を託される責任を感じていると思います。

鎌倉校外学習事前学習（１年）

家庭科　どの色が似あうかな　（1年）

修学旅行事前学習（２年）

生徒一人ひとりの質問カードの裏には返事が



百人一首交流会を控えて（２年）

廊下の卒業カウントダウン（３年）

様々な思い・思い出を胸に。

認知症サポーター養成講座（地域ケアプラザご協力３年　）

今年はご講演の導入部で生徒・教員のスキット（寸劇）もありました。

昼休み@ふれあいコーナー(3年)

大勢で楽しそうに過ごしていました。

代表選手？がポーズを取ってくれました。

お別れ遠足@川崎ラウンドワン（5・6組）

全員で参加することができました。日吉台西中学校個別支援級の

お友達と合同でボーリングやスポッチャを楽しみました。

明るく居心地の良い学校風景　抜粋　　一

鬼には豆・高中生には本（図書委員会）

季節季節に～左から順に　門松、節分、バレンタインデー（環境委員会）

ありがとうの樹（保健委員会）

１月に生徒たちと見守るシクラメン（荏原花園様より）

たかたの雪うさぎ（某生徒作）

【その他】

・感謝状をいただきました

感謝状

横浜市立高田中学校 殿

貴校は法務省及び全国人権擁護委員連合会主催の第四十二回全国中学生人権作文コンテストの実施に多大な協力をされ中学生の人権意識の高揚のために尽力されました

ここに深く感謝の意を表します

令和六年二月一日

法務大臣 鈴田隆志

全国人権擁護委員連合会長 内田博文

高田中学校に感謝状をいただきました。法務省及び全国人権推進委員連合会主催の「第４２回全国中学生人権作文コンテスト」を通じた人権教育の推進への尽力への感謝状とのことです。入賞作品最終選考に高田中からの多くの良い作文が残っていたための表彰だそうです。入賞していないとわからないことなので正直びっくりしました。市内で２０校くらい表彰されたそうです。

教職員、保護者、地域、子どもを取り巻く様々な大人の姿を子どもたちはじっと見ています。「人権」という言葉を声高に使わずとも、日頃から、必要な事は毅然と、でも、あたたかく理解し合って尊重し合って過ごしあえる学校でありたいものです。

・放課後学習会

地域コーディネーターや企業のサポートを得て、大学生などに教わりながら落ち着いて学習できる Ｒ５年度の放課後学習会が終了しました。

定期テスト前の図書室での学習会では、毎回数十名の生徒が友達との学び合いをしていました。高田地域ケアプラザやゆずの樹での学習会は、部活動のあとや一度家に帰った後に来ることも可能です。先日の雪の日は、流石にだれも来ていないかなと思っていたのですが、学びに来ていました。偉い。来年度の実施については決まり次第またご連絡させていただきます。

・高田中リーディングDXスクール専用ページ情報

適宜更新がかかっており現在１０事例以上の学びの様子をご覧いただけます。
右の QR コードからご確認いただけます。

・先輩が訪問

先日の昼間、「ぺこぱ」のシュウペイさんがオフ日ということで芸人のお友だちとふらりと高田中学校を訪れてくれました。生徒たちも喜びました。昨年度末には、３年間まるごとコロナ禍だった卒業生を応援したいと高中生にエール動画をプレゼントしてくださった「ぺこぱ」。その場にいた先生から直接ご本人に御礼をお伝えできて良かったです。